市立病院と地域医療機関とのパートナーシップで高度な医療の実現をめざす

PARTNERSHIP

病院広報・医療連携誌
Vol.33
2020.5

鹿児島市立病院だより

緊急レポート

鹿児島市立病院の新型コロナウイルス感染症対応

特別企画 **就任あいさつ**

副院長／副院長待遇
部長／科長

インタビューシリーズ6

組織を機能的に紡ぐため調整役としての働きを

堀 剛副院長

令和元年度災害訓練レポート

実践的な訓練を重ねて災害に備える

研修医あいさつ

医師として己を磨く、充実した日々

複数の診療科の連携で専門的な対応を可能にする

循環器内科・心臓血管外科の連携

連載企画 **市立病院×かかりつけ医**

「鹿児島医療連携」最前線

組織を機能的に紡ぐため調整役としての働きを

鹿児島市立病院 副院長／**堀　剛**

● INTERVIEWER／**有薗 京子** 医療連携・入退院センター 看護師長

横断的組織の充実と、将来に繋がる人材育成に寄与したい

Q：副院長に望まれる役割はどのようなものだと考えていらっしゃいますか？

鹿児島市立病院は坪内院長が就任されて6年経過し、その間多くの改革がなされてきました。その結果、各診療科、各部門のレベルは全国の地域中核病院の中でも上位の医療施設へと発展できたのではないでしょうか。市立病院ではありますが、これからも鹿児島県の中核医療施設として、県全体の医療レベルのさらなる向上に寄与しなければならないと思います。縦の組織である各診療科は年ごとに充実してきています。また横の組織である看護部、薬剤部、そして各医療技術部門、事務局にも優秀な人材が配置されていると思います。私に期待される職務はこの縦の組織と横の組織を機能的に紡ぐための調整役となることだと思っています。

Q：先生の経験をどのように病院機能の向上に役立てていかれるおつもりですか？

当院は救急医療、周産期医療そしてがん診療を診療の大きな柱と掲げています。私自身、鹿児島大学旧第二内科に昭和60年に入局し、当時の橋本教授のもと肝臓疾患を専門に診療させていただいておりました。また、平成6年より現院長（当時宮崎大学第二内科教授）でいらっしゃる坪内教授の元で、肝癌の診療が私の仕事の中心となり、多くの患者さんの診療を担当させていただきました。このような経験をもとに、今後もがん診療が私の仕事の中心を占めると考えています。

当院は2020年４月より地域がん診療連携拠点病院の高度型の認定をうけました。高度型地域がん拠点病院は全国47施設、九州では当院を含め６施設しか認定されておりません。高度型地域がん診療連携拠点病院に要求されるものは、がん患者の診療実績のみだけではなく、外来化学療法室、緩和ケアセンター、がん相談支援センター、がん登録など、多職種が参加する横断的な組織の整備が問われています。さらに、今後はゲノム医療に対する体制も整備しなければなりません。当院にはこれらの分野を担当する横断的組織の高度化、先進化が要求されることになると思われます。私自身、横断的組織の充実、そして将来を担う人材の育成に少しでも寄与できればと考えております。

常に先端の医療を提供して県全域の医療ニーズに応える

Q：最後に先生の所属科である消化器内科に関して一言

令和２年度は鹿児島大学消化器疾患・生活習慣病学講座の井戸教授のご支援により、消化器内科・腫瘍内科へ私を含め計14名を配置していただくこととなりました。大学病院との連携のもと、当院が鹿児島県の中核医療施設としての役割を果たすための人員配置であると考えております。消化器救急疾患においては、救急部との連携を密に、途切れのない、また、がん診療を中心とした急性期医療に対しても常に先端の医療を提供し、鹿児島県全域の医療機関のニーズにこたえられるように消化器内科・腫瘍内科全員で取り組みたいと思います。今後とも皆さまのご指導、ご支援よろしくお願いいたします。

院長コラム

新型コロナウイルス感染症に思う

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は世界中で広がって、2020年5月18日現在、感染者数は約463万人、死者は31万人、日本でも感染者数約16,000人、死者748人に達し、経済活動はじめ社会活動そのものが急停止し、大きな社会不安をもたらしています。

アメリカやヨーロッパの国々では爆発的感染が起こり、病床、医療機器、医療スタッフが不足し、医療崩壊が起こっています。日本でも、専門家会議が感染爆発を避けるために、活動の自粛を要請し、3月はなんとか持ちこたえてきた感がありました。しかし、桜が開花し始めた3月下旬には自粛ムードが緩み、4月になり東京や大阪などの大都市では感染者が急増し、医療崩壊が懸念されています。現在の指定感染症に対する診療体制は新型コロナ感染症のような病気を想定したものではないことが医療の現場を混乱させています。幸い、鹿児島県の感染症数は10名と少ない状況ですが、増え始めると2～3週間で100～200人になるのがこの病気です。医療資源の乏しい鹿児島ではしっかりした準備が必要で、第2種感染症指定病院である当院もいろいろな準備を進めています。

当初から、私はこの感染症の克服には、ワクチン、抗ウイルス薬、迅速検査キットが必要で、国が感染拡大防止とともにすぐに取り組むべきだと思っていました。私は、B型肝炎ウイルスやC型肝炎ウイルスの発見からの診療の進歩を、また、AIDSやインフルエンザの診療の進歩も見てきました。現在では、これらのウイルス感染症は容易に診断でき、ワクチンや有効な抗ウイルス薬が開発され、制御できるようになっています。それには長い時間がかかっていますが、我が国を始め世界の研究者や企業にはウイルス感染症についてのこれまでの研究実績があります。科学先進国が情報共有して開発に取り組めば、必ず近い将来、これらの課題は解決できると信じています。実際、わずか数ヶ月で迅速なPCRキットや抗原検査が実用化され、抗インフルエンザ薬レムデシビルが認可されるなど薬の開発もすすんでいます。

ウイルス感染症の制御には、COVID-19のウイルス遺伝子、感染や増殖メカニズム、ウイルス免疫など、科学的なアプローチにより感染症としての実体を明らかにすることが必要です。それにより、この感染症に対する予防・診断・治療が一日も早く確立し、我が国で感染爆発や医療崩壊が起こらずにこの感染症が終息することを祈っています。

坪内 博仁
病院長

医療連携と感染症対策を中心に病院全体の業務を担う

副院長｜**時村　洋**　脳神経外科

（ときむら・ひろし）

日本脳神経外科学会専門医・代議員・指導医／日本脳卒中学会専門医・代議員／医学博士／日本脳卒中の外科学会技術指導医／日本脳神経外科コングレス CONGRESS OF NEUROLOGICAL SURGEONS会員／日本臨床神経生理学会認定医・代議員／日本リハビリテーション医学会／日本整容脳神経外科研究会幹事／日本脳腫瘍の外科学会代議員

令和2年4月1日より鹿児島市立病院副院長を拝命しました。当院へは3年前に着任しましたので4年目の勤務となります。これまで脳神経外科部長、脳卒中センター長として脳神経外科、脳卒中診療の充実につとめて参りましたが、これからはそれらの仕事に加え、病院全体の業務に当たらねばなりません。先ず担当させていただきますのが、医療連携と感染対策です。そもそも鹿児島市立病院脳神経外科は脳卒中等急性期疾患および専門領域に特化した診療を目指している関係で、回復期リハビリテーション病床をお持ちの医療機関との連携なしでは成り立ちません。一昨年より毎週多くの施設の担当者にお集まりいただき脳卒中連携会議を開催させていただいて参りましたが、これを中心に強い医療連携をいただいていることを大変感謝申し上げている次第です。この経験を生かし、これからは他科の連携についても病院全体として取り組んで参りたいと考えております。

さて、コロナウイルスが世界を席巻し、今や我々は人類史上類を見ないほどの大災害の真っ只中にいます。この時期に感染対策室長という重責を担うことになり戸惑っておりますが、見方を変えればこのような経験は望んでも出来るものではなく、感染終息の後に「あの時は大変であったが、良い経験だった」と言える日が訪れることを念頭に、院内、院外の先生方にご指導をいただきながら前向きに努力をする所存です。

鹿児島市立病院の職員の皆様、また多くの連携医療機関の先生方、スタッフの皆様、今後とも何卒よろしく御願い申し上げます。

副院長待遇｜**茨　聡**　総合周産期母子医療センター 新生児内科

市民や県民のため、より良い医療を提供したい

本年４月１日に、鹿児島市立病院副院長待遇を拝命いたしました。これまで、周産期医療特に新生児医療に携わってきましたが、これからは、臨床研修、臨床研究支援、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科連携講座支援、診療情報管理、中央図書室管理、栄養部管理などの病院全体のための業務を務め、鹿児島市立病院が鹿児島市民、鹿児島県民のためのより良い医療を提供できるように精進したいと思います。何卒、ご協力をよろしくお願いいたします。

（いばら・さとし）

医学博士／新生児専門医制度指導医
鹿児島大学医学部臨床教授、客員教授
産婦人科専門医／外国人医師臨床修練指導医
臨床研修指導医／新生児蘇生法インストラクター
日本周産期新生児医学会／日本新生児成育医学会
日本産科婦人科学会／日本脳低温療法学会
急性血液浄化療法学会

ほぼすべての科がある当院の総力で、皆様のご紹介に対応する

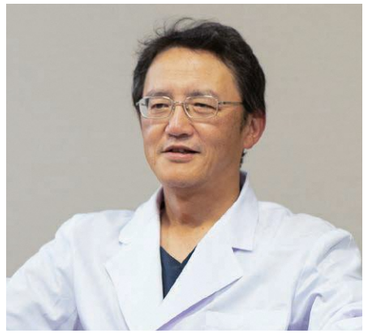
循環器内科部長｜**桶谷 直也**

この度循環器内科部長に就任しました桶谷直也です。サブスペシャリティは不整脈専門医ですが、循環器専門医はもちろん、総合内科専門医でもあり、“心臓しか診られないのはカッコ悪い”を信条にしております。当科では高血圧・虚血性心疾患・心不全・不整脈はもちろん下肢動・静脈疾患などに対しましても心臓血管外科と協力し、また当院にはほぼすべての科がありますので、いつでもなんでもご紹介いただければ幸いです。今後ともよろしくお願いいたします。

（おけたに・なおや）

医学博士／日本循環器学会専門医／日本内科学会認定医／日本内科学会総合内科専門医／臨床研修指導医／日本不整脈心電学会不整脈専門医／難病指定医
（所属学会）
日本内科学会／日本循環器学会／日本不整脈心電学会

新体制でも着実に歩みをすすめていきたい



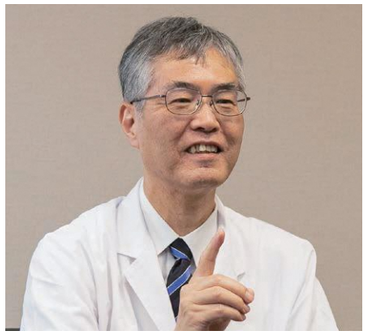
心臓血管外科部長｜**四元 剛一**

今回末梢血管外科を中心に診療をされていた心臓血管外科部長牛島孝先生が、医局人事で今給黎病院へ異動となり、体制が変わりました。心臓大動脈を四元剛一と福元祥浩、末梢血管を荒田憲一、小児心臓を今回鹿児島大学から赴任しました松葉智之が、それぞれ担当いたします。成人心臓血管外科に加え、新たに小児心臓外科手術を当院で開始することになりました。循環器内科、小児科、新生児科、麻酔科等の各診療科、手術部、ICU、NICU、病棟等関係各部署のご協力をいただき、これからも着実に歩みをすすめていきたいと思っています。皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

（よつもと・ごういち）

医学博士／日本外科学会専門医・指導医／日本胸部外科学会認定医・指導医／日本心臓血管外科学会専門医・修練指導者
（所属学会）
日本外科学会／日本胸部外科学会／日本心臓血管外科学会／日本血管外科学会／日本循環器学会／日本冠疾患学会
日本冠動脈外科学会

地域の二次医療を担うための体制づくりに努める



小児科部長｜**野村 裕一**

当院小児科は鹿児島市の二次医療を担っており、紹介していただく患児への対応が大切な責務のひとつです。その責務を機能的に果たしていける体制を支えるために努力する所存です。また、若手医師、研修医においては、急性疾患への対応を実践的に学ぶ貴重な経験の場となりますが、患児へ不利益が及ばぬように安全面に配慮しつつ、能動的な学習ができるようにしっかり支援していきたいと考えます。

これらのことは、多くの方々のご支援があってこそできることですので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

（のむら・ゆういち）

医学博士／小児科指導医／小児科専門医／小児循環器専門医
（所属学会）
日本小児科学会／日本小児循環器学会／日本川崎病学会

薬を通して安全・安心な医療を支える

薬剤部長｜**有馬 純子**

皆さま初めまして。４月に着任いたしました有馬です。薬剤師歴のほとんどを大学病院で過ごしたため、部長としての役割は今回が初めてです。歴代の部長が課題としていた薬剤師数も徐々に増え、いよいよ今年度は薬剤師の病棟薬剤業務が開始予定です。薬を通して安全・安心な医療を支える薬剤師として、より他職種と話のできる職場を目指します。至らぬ点も多いかと思いますが、薬剤部員と一緒に学んで参りますので、ぜひお声かけいただければ幸いです。

（ありま・じゅんこ）

日本医療薬学会認定薬剤師／日本医療薬学会がん専門薬剤師／日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師
（所属学会）
日本医療薬学会／日本薬学会／日本臨床薬理学会／日本癌治療学会／日本臨床腫瘍学会／日本臨床腫瘍薬学会／日本医薬品情報学会

患者様とご家族の笑顔のためにOne Teamで取り組む

小児外科科長｜**町頭 成郎**

長年に渡り鹿児島の小児医療に貢献された野口啓幸先生のご退職に伴い、2020年4月より現職に就きました町頭成郎と申します。当院はドクターヘリを運航する高度救命救急センターと全国有数の成育医療センターを有しているため、当科でも小児救急疾患と新生児外科疾患に対応することは大切な役割と考えています。関連診療科との良好な連携を活かしOne Teamで治療に取り組み、患児様とご家族の笑顔のために努力して参ります。今後ともご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

（まちがしら・せいろう）

医学博士／日本外科学会専門医／日本小児外科学会専門医／日本小児外科学会指導医
（所属学会）
日本外科学会／日本小児科外科学会／日本内視鏡外科学会／日本周産期新生児医学会／日本小児泌尿器学会／日本臨床栄養代謝学会

鹿児島市立病院新型コロナウイルス感染症対応

更なる感染拡大に備えた体制づくり

報告① 第二種感染症指定医療機関としての責務を果たす

時村 洋 副院長・感染対策室長

時々刻々と変わる状況を連日の対策会議で共有

私共鹿児島市立病院では第二種感染症指定医療機関として、いち早くこの問題に取り組んで参りました。2020年1月9日中国武漢市非定型肺炎集団発生に関する通達が届いて以来、1/27感染症病棟のフローチャート作成と周知、1/29第1回新型コロナウイルス対策会議開催（外来、入院の対応確認）、2/17職員の健康観察、体温測定、2/18行政PCR開始、2/21帰国者・接触者外来設置、3/31面会、医療情報担当者の立ち入り禁止、4/2第2回会議、4/9第3回会議、と矢継ぎ早に種々対応して参りました。4/15からは時々刻々と変わる状況を共有するため、毎日対策会議を開いています。

また初期より、多くの医療機関から感染疑い患者の紹介をいただき、これに対応して参りましたが、救急疾患、緊急手術を要する症例に対応するためには行政検査では間に合いません。そのため、1時間で結果が判明するPCR検査キットを4月9日に発注し、同月15日より検査を開始しました。ただ、この検査はこれまでに13例行ったものの、精度に問題があり、抽出法に改善が必要と考えられ、現在対応中です。またこの間行政検査を行った人数は71名に上ります。

院長コラムでも触れられております通り、新型コロナウイルス感染爆発は災害医療に近いものです。長崎に停泊中のクルーズ船でクラスター感染が起こり、4月25日、災害派遣医療チーム（DMAT）に派遣要請がありました。これを受けて、当院医師1名、看護師2名、業務調整員として放射線技師1名に他医療機関からの1名を加え、4月30日、コロナ感染者診療支援を行うために、長崎に向け出動しました。

感染拡大の状況を捉えて遅滞なく対応していく

現状のまま感染終息を迎えたいという希望はありますが、諸外国や国内大都市の状況を見れば、現状でおさまることは難しいと言わざるを得ず、更なる感染拡大を予想して対応していかねばなりません。今後感染拡大に伴う患者数増加、重傷者発生となれば、当院は、重傷者を中心に対応する責務を負っており、そのための体制を整えつつあります。今後も感染拡大の状況を捉えつつ、遅滞なく対応していく所存です。続いて濱﨑部長より新型肺炎ワーキンググループについて報告させていただきます。

▲出発前のDMAT

▲活動終了後

報告② 院内感染防止を目的とした診療・看護体制の構築

濱﨑 順一郎 院長補佐・麻酔科 部長／新型肺炎ワーキンググループ長

改善点を即座に実行するスピード感のある対策会議

鹿児島市医療圏において唯一の第二種感染症指定医療機関としての役割を担うべく、院内一丸となって取り組んでいる新型コロナウイルス対策について、ご報告致します。

毎朝病院長を筆頭に、コアメンバーによる新型コロナ対策会議を開き、行政をはじめ院外会議の状況と院内現状の共有を行っています。この会議は、前日事例の問題点を検討・議論し、改善出来る点は即座に実行するスピード感のある会議となっています。

更に、実働組織であり『院内感染防止を目的とした診療・看護体制の構築』を絶対的使命として招集した新型肺炎ワーキンググループにおいては、診療、ケアが不安無く行えるような職場環境の整備を第一義に活発な議論を行っています。

感染対策室を中心に長期化に備え、準備を整える

検査体制が十分に確立していない中、COVID-19疑い患者への対応に苦慮している毎日ですが、PCR陽性で軽症および中等症患者は感染病床6床を使用しています。人工呼吸管理やECMO適応患者は、集中治療室のスペース半分をパーテーションで分割したCOVID19-ICUへ収容する予定としていますが、幸い現在までに陽性重症患者は発生していないので、疑い患者に対してゾーニング、PPE脱衣の徹底したシミュレーショントレーニングを反復して行っています。

感染対策室を中心に職員全員が現状を正しく共有し、長期化に備え、十分な準備を整えていくべく取り組んでいますので、連携病院各位におかれましても、様々な場面でのご協力、ご支援をお願い致します。

研修医のあいさつ

研修医1年目を振り返って

医師として己を磨く、充実した日々

多くの経験を通して、成長を実感できた1年

臨床研修医 野崎 圭吾

初期研修も折り返し地点まできました。初めはカルテの使い方もわからず、備品の場所もわからず、給料を頂くのが申し訳ないと思うほどでしたが、その頃を思い返すと少しは成長できたのを実感します。

市立病院の研修の特徴の1つに、救急当直の回数の多さが挙げられます(あくまで県内でのですが)。最初の救急当直の時は3日前くらいから憂鬱でしたが、今は数時間前から溜め息が出始めるくらいには慣れてきました。忙しい救急外来では、患者さんやご家族に自分だけで説明をしなければならないこともあります。そんな時、自分の言葉選び1つで患者さんへの伝わり方が違ってくるのをこの1年で何度も実感しました。知識や技術はもちろん、それ以外の部分でもより良い医師になるため、もう1年気を引き締めて頑張りたいです。

のざき・けいご
出身大学：鹿児島大学
趣味：楽器演奏

幅広い分野で貴重な経験を積める恵まれた環境

臨床研修医 時岡 玲子

初めての救急当直で、2年目の先生が流れるように問診・診察から診断・治療まで行う姿に、憧れを覚えた日から一年。あの大きな背中に、今の私はどれくらい近づくことができているでしょうか。

市立病院では初期救急から第三次救急、内科疾患から外傷・外科疾患まで、幅広い分野を経験できます。最初は何をするにも不安でしたが、上級医の先生方のご指導は手厚く、手技の際も心強いです。看護師をはじめとする多くのスタッフの方々にも助けていただきながら、また、先輩や同期に刺激を受けながら過ごした一年でした。

医師としての最初の一歩を、このような恵まれた環境で始められることに感謝したいです。様々な科で学べる貴重な今日を大事にして、これからも研修医一丸となって励んでいこうと思います。

ときおか・れいこ
出身大学：鹿児島大学
趣味：映画鑑賞、スポーツ観戦

令和元年度災害訓練レポート

実践的な訓練を重ねて災害に備える

瀬戸口 満 事務局総務課 主幹

災害時に医療の中心的役割が求められる基幹災害拠点病院

市立病院は、鹿児島県の災害拠点病院の中でも中心的な役割を担う基幹災害拠点病院に指定されており、大規模災害時においても医療機能を保つことが求められています。建物は地震の揺れを少なくする免震構造とし、自家発電装置の設置、地下水を利用した水を確保するほか、食料や医薬品の備蓄、DMAT（災害派遣医療チーム）の保有など、ハード・ソフトの両面から災害に備えております。

こうした取り組みに並び、当院では毎年度災害訓練を実施しており、今年度は去る2月2日に行いました。これまでは、傷病者の受け入れ訓練を主体に検証を重ねてまいりましたが、今回の訓練では、電子カルテが使用できない状況での、手書きによる処方箋の書き方や、薬剤や各種検査、食事オーダーの検証を行ったほか、患者食を階段で搬送するなど、医師や看護師をはじめ、薬剤師や検査技師などにとって、より実践的な内容になったのではないかと思います。

訓練を通して課題を洗い出し災害の発生に備える

普段電子カルテを使用する医師にとって、手書きで処方箋を作成することはかなり難儀なことと思われましたが、様式の不備や改善点等を洗い出すことができる良い機会になったのではないでしょうか。

また、階段による食事の搬送訓練では、エレベーターの有難みを痛感しましたが、備蓄食の保管場所や量を改善すべきなどの意見もあり、今後の課題も見つかりました。

今回のような訓練は、なるべく多くの職員が繰り返し行うことが重要です。訓練を通して課題を洗い出し、随時ＢＣＰ（業務継続計画）や災害対応マニュアルを見直し、いつ災害が発生しても各部門の職員が各々の役割を果たすことが、基幹災害拠点病院に求められています。

最後に、大変お忙しい中、今回の訓練にご参加いただいた皆様に感謝いたします。

▲災害時における備蓄の現状

▲手書き処方箋を使用した薬剤の払い出し訓練

▲紙カルテ運用訓練

▲食事の搬送訓練

複数の診療科の連携で専門的な対応を可能にする

循環器内科・心臓血管外科の連携

桶谷 直也 循環器内科部長

ますます広い分野で患者様をお引き受けできる体制づくり

皆様、大変お世話になっております。日ごろから多くの貴重な患者様をご紹介いただきまことにありがとうございます。当院循環器内科・心臓血管外科の体制が2020年4月より大きく変わりますので、お知らせいたします。長年にわたり当院の心臓血管外科を統括し、血管外科で中心的に活躍された牛島孝医師が異動となりました。当院では現在心臓外科のみならず、血管外科も荒田憲一医師、下石光一郎医師が在籍し非常に充実した人員です。今後は小児領域の拡充も予定しており、ますます広い分野でお引き受けできる体制となる予定です。ただ今まで牛島医師が下肢動脈のカテーテル治療や、下大静脈フィルターなど他院では内科の医師が担当している領域までカバーされていましたので、そちらは循環器内科で引き受けることとしました。下肢動脈を含めたカテーテル治療は当科の内匠拓朗医師が統括し、尾辻秀章医師、今村春一医師を中心に治療を行ってまいります。下肢の治療に関しましては、血管外科の荒田・下石両医師とカンファレンス・討議の上、内科的・外科的な最適な治療を検討させていただきます。ただご紹介いただく先生方には混乱を生じえますので、心臓血管外科・循環器内科のいずれかに紹介いただきましても、こちらで判断し、適切に対処させていただきます。そのため心臓外科に、ご紹介いただいたのに循環器内科の医師が対処するということも生じますがご紹介いただきました先生方・患者様にご迷惑にならないように最適な治療を両科で連携して行いますのでご了承ください。

血管領域では下肢静脈瘤の手術、急性下肢動脈塞栓症などは外科領域となりますが、深部静脈血栓の精査は内科領域となるなど分かりづらく、お分かりにならない場合にはひとまず循環器内科にご紹介いただければ連携をとって対処させていただきますので、お気軽にご紹介ください。

ご紹介いただいた患者様により良い治療を行うために

当院は心臓のみならず、下肢血管の治療も外科的にも内科的にも専門的に対応可能で、整形外科、形成外科、糖尿病・内分泌内科、泌尿器科、腎臓内科など多くの科があり、透析も可能ですのでほぼすべての病態に対応可能かと思います。下肢疾患は専門性が高く、我々循環器内科の医師も鑑別に困ることがありますので、患者様をご紹介いただき、総合的に対処させていただければ、より良い医療をご提供できるかと思いますので、今後ともご紹介いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

今村 春一（いまむら・しゅんいち）循環器内科医長
内匠 拓朗（たくみ・たくろう）循環器内科科長
四元 剛一（よつもと・ごういち）心臓血管外科部長
桶谷 直也（おけたに・なおや）循環器内科部長
荒田 憲一（あらた・けんいち）心臓血管外科科長
尾辻 秀章（おつじ・ひであき）循環器内科科長
下石 光一郎（しもいし・こういちろう）心臓血管外科医長

市立病院×かかりつけ医「鹿児島医療連携」最前線

鹿児島市立病院では、地域の医療機関（かかりつけ医など）と相互に円滑な連携を はかりながら、患者さんが適切な医療を受けられるよう積極的に取り組んでいます。

CASE 01

日本眼科学会専門医／日本眼科学会指導医／医学博士
鹿児島市立病院／眼科 部長
上村 昭典 医師
×
きた眼科／院長
北 葉月 医師
日本眼科学会専門医／視覚障害者用補装具適合判定医

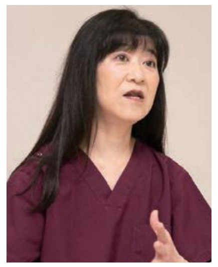
病院ごとの特徴を活かした医療連携が大切

上村　貴院は子どもの患者さんが多いのが特徴ですよね。

北　女性の医師だから来やすいのかもしれません。それに元々は私が市立病院で上村先生の部下だったとき、「子どもメインにしてみたら？」とアドバイスを頂いたのがきっかけで、今の私があると思っています。

上村　当院はNICUがあるので、以前から未熟児網膜症など新生児の患者さんが多いですからね。あとは全身疾患のある患者さんも多いのが当院の特徴です。

北　そうですよね。医療連携としては、子どもも成人も貴院で手術をし、安定期に入ったらまた当院に戻ってきますが、1人の患者さんを診るにあたり、病院ごとに得意なことを活かしていくことが大切だと思っています。



上村　まったくそのとおりで、難しい手術などは当院でできますが、安定期の細かなサポートまでは手が届きません。お互いの病院がしっかりと連携することが、患者さんのための医療へとつながります。

医師同士のコミュニケーションでより確かな医療連携へ

北　地域連携をすすめるにあたり、当院も市立病院に合わせてレベルアップしていくことが大切だと考えています。また他の医療機関も同じようにレベルアップすることで、鹿児島の医療全体がベースアップしていくと思います。

上村　心強い発言をありがとうございます。現在、他の医療機関との連携も上手くいっているので、このまましっかり連携体制がとれることを願っています。

北　確かに私が市立病院にいた頃より、連携体制は整っていると感じます。

上村　そうですね。しかし紹介が増えてきている分、今後対応できないケースも出てくると予想されます。本当に当院の治療が必要な患者さんを受け入れられるよう、私たち医師同士のコミュニケーションもしっかりととっていきたいですね。

北　はい。オンラインの便利な世の中ですが、時々は直接会って話すことも医療連携では大切だと思います。上村先生は私の一番尊敬する先生なので、まだまだ学びたいことがたくさんあります。

上村　ありがとうございます。これからも鹿児島の眼科をともに支えていきましょう。

医療法人
きた眼科

診療科目　眼科

■住所／鹿児島市草牟田町3-12
■TEL／099-222-8222
■URL／http://kitaganka.jp/
■駐車場／52台
■アクセス／市営バス、鹿児島交通、JRバス「伊敷中学校バス亭」前

ホームページ

診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00〜12:30	○	○	○	○	○	※	／	／
14:30〜18:00	○	○	○	○	○	／	／	／

※ 土曜日の診療時間は9:00〜13:00

CASE 02

日本泌尿器科学会専門医 指導医／日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医／日本内視鏡外科学会技術認定医／日本移植学会移植認定医／西日本泌尿器科学会評議員／ロボット支援手術プロクター／医学博士／鹿児島大学医学部臨床教授
鹿児島市立病院／泌尿器科 部長
五反田 丈徳 医師
×
生駒泌尿器科／副院長
山根 隆史 医師
日本泌尿器科学会専門医 指導医／ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター／日本化学療法学会 抗菌薬臨床試験認定医／日本がん治療認定医機構 がん治療認定医／日本化学療法学会 抗菌化学療法指導医／医学博士

最先端の医療機器で、精度の高い手術が可能に

五反田　山根先生とは同期なので対談は少々照れますが、よろしくお願いします。

山根　こちらこそよろしくお願いします。医療連携がテーマですが、同期で気軽に相談できるため、お互いのコミュニケーションは非常に良くとれていますよね。

五反田　本当にそのとおりですね。

山根　現在、当院からは月に1、2名の患者さんの手術を市立病院にお願いしている状況です。

五反田　当院では平成28年からダヴィンチによる手術を開始しています。高度な内視鏡手術が可能になり、さらに体への負担や術後の尿失禁が減るなど、より早い退院が可能となりました。退院後は再び貴院でのフォローをお願いしています。

山根　やはり患者さんの負担が減るダヴィンチ手術はメリットが大きいですよね。

五反田　そうですね。その他にも九州で3番目に導入したPDDシステムは、がんの取り残しが減り、再発も約10％減ると報告されているので、こちらも患者さんにとってメリットが大きい治療法です。

医療連携で大切にしているそれぞれのポリシー

山根　市立病院にしかできない治療を求めて、紹介はかなり増えているのではないですか？

五反田　はい。手術件数はこの5年で2倍になりました。私は常々、同じ科の医師たちに「Never Say “NO”」と伝えています。受け入れを断らないことは、医療連携をする上でも非常に大切だと考えています。

山根　そのポリシーに甘えることなく、こちらでできることは可能な限り行っておきたいと思います。例えば当院でできる検査は済ませておくなど、なるべく貴院の負担にならないよう心がけたいです。

新型コロナウイルスもそうですが、やはり市立病院は「最後の砦」だと思っているので。

五反田　ありがとうございます。そうした対応をして頂けると非常に助かります。同期として今後もお互いに切磋琢磨しながら、鹿児島の患者さんをともに救っていきましょう。

医療法人 浩明会
生駒泌尿器科

診療科目　泌尿器科・人工透析内科

■住所／鹿児島市小松原2丁目2-13
■TEL／099-260-7300
■URL／http://ikoma-uro.com/
■アクセス／鹿児島市電「上塩屋電停」から徒歩約8分

ホームページ

診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00〜13:00	○	○	○	○	○	※	／	／
14:00〜17:00	○	○	○	／	○	／	／	／

※ 土曜日は受付13:30まで、診療時間は14:00までとなります

病院広報・医療連携誌
PARTNERSHIP
鹿児島市立病院だより
Vol.33
2020.5

いのちの入口、えがおの出口。

鹿児島市立病院
www.kch.kagoshima.jp/

8階南病棟スタッフ（左より 酒瀬川、川田、東元、櫻木、野﨑）

編集後記
Editor's notes

令和2年度、新体制で臨む鹿児島市立病院の取り組みを紹介させていただきます。新副院長、部長の抱負と初期研修医の感想等をご覧ください。また今回の医療連携は眼科、泌尿器科を取り上げました。さて院長コラムにもございます通り、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっています。私共鹿児島市立病院では第二種感染症指定医療機関として、いち早くこの問題に取り組んで参りましたので、こちらも報告させていただきますが、一日も早い収束を待ち望むばかりです。

■発行日／2020年（令和2年）5月22日　■発行者／〒890-8760鹿児島市上荒田町37番1号 坪内博仁［鹿児島市立病院長（事業管理者）］　■担当者／医療連携室
■連絡先／TEL.099-230-7100　FAX.099-230-7101　http://www.kch.kagoshima.jp/